

日本体力医学会学会賞の受賞論文

学会賞（体力科学）：ベンチステップ運動でのトレーニングが閉経女性の骨密度、骨塩量と骨代謝に及ぼす影響

松原 建史^{1,2}, 酒井 由美子^{1,3}, 柳川 真美^{1,2}, 肘井 千賀^{1,3}, 沼田 信^{1,3}, 江上 薫^{1,3},
山口 靖子^{1,2}, 峰 祐子^{1,3}, 前田 龍², 田中 宏暁⁴, 進藤 宗洋⁴, 小池 城司^{1,3,5,6}

¹福岡市健康づくりセンター, ²株式会社健康科学研究所, ³財団法人福岡市健康づくり財団,
⁴福岡大学スポーツ科学部運動生理学研究室, ⁵九州大学大学院医学研究院循環器内科学,
⁶福岡市医師会成人病センター

学会賞（JPFMSM）：Adherence to and effects of multidirectional stepping exercise in the elderly: A long-term observational study following a randomized controlled trial

Ryosuke Shigematsu¹, Tomohiro Okura², Masaki Nakagaichi³ and Yoshio Nakata^{4,5}

¹Faculty of Education, Mie University, ²Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba
³Graduate School of Health Sciences, Nagasaki University, ⁴Faculty of Medicine, University of Tsukuba
⁵Tsukuba Critical Path Research and Education Integrated Leading Center (CREIL), University of Tsukuba

**奨励賞：小児の日常生活中におけるエネルギー消費量と体格・体力との関連
—二重標識水法および加速度計法を用いた検討—**

中江 悟司¹, 山田 陽介², 木村 みさか², 鈴木 和弘³, 小澤 治夫⁴, 平川 和文⁵, 石井 好二郎⁶

¹独立行政法人国立健康・栄養研究所基礎栄養研究部, ²京都府立医科大学大学院保健看護研究科,
³山形大学地域教育文化学部, ⁴東海大学大学院体育学研究科, ⁵神戸大学大学院人間発達環境学研究所,
⁶同志社大学スポーツ健康科学部

平成26年度学会賞選考を振り返って

学会賞選考委員長 竹森 重

昨年度の「体力科学」「JPFMSM」のそれぞれと両誌をあわせた若手筆頭著者の論文から、いずれも学会員の原著を選んで三つの賞が選考されました。今回初めての三賞選考でしたが、各賞にふさわしい受賞論文がつつがなく選考されました。受賞された皆様にお心からお祝い申し上げますとともに、数ある学術誌の中で「体力科学」「JPFMSM」を選んでいただきましたことに深く御礼申し上げます。

「体力科学」も「JPFMSM」も今日では非会員からの投稿を受け入れ、創刊号からの全てを一般公開して広く国内外の体力・スポーツ医科学の発展に寄与しています。この中で両誌から選考される学会賞には、会員からの優れた投稿で両誌をより魅力ある優れた学術誌とし、その母体である日本体力医学会を発展させる期待が込められています。

より専門的な学会が設立される中で、懐広く体力・スポーツ医科学の幅広い学術活動を集約する体力医学会の今後の発展を想いますと、異分野の業績の比較に戸惑うことはあっても、「体力科学」と「JPFMSM」両誌の健全な棲み分けの指針を示す役割も今後の学会賞は担うのではないのでしょうか。

現在に安住することなく、時代を少し先読みした地固めの活動を来年度の選考に向けて始めておきたいと考えております。

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2014年5月）議事録

日 時：2014年5月16日（金）午後5時30分～7時30分

場 所：東京八重洲ホール 701会議室

議 長：下光輝一理事長

出席者：下光輝一、碓井外幸、大野 誠、小野寺昇、
勝村俊仁、川久保清、栗原 敏、定本朋子、
下村吉治、鈴木政登、武政 徹、竹森 重、
田中宏暁、田畑 泉、永富良一、西平賀昭、
浜岡隆文、福永哲夫、山内秀樹、
吉岡利忠（各理事）

中垣内真樹（第69回大会実行委員長・長崎）

欠席者：荒尾 孝、川原 貴、坂本静男、田中喜代次、
鳥居 俊（各理事）、
小林康孝、能勢 博（各監事）、
田島文博（第70回大会長・和歌山）

議事に先立ち、下光理事長から2014年4月1日に本学会が一般社団法人として新たにスタートしたと挨拶があり、法人化に多大なる支援をいただいた小野寺総務委員長はじめ役員の方々に感謝の意が述べられた。

【審議事項】

1. 前回議事録の承認

理事会開催中に各自で議事要旨の内容確認を行い、訂正等がある場合は申し出ていただくこととし、理事会終了後に承認とすることとした。

2. 持ち回り理事会議決事項の確認について

（小野寺総務委員長）

1) 旅費規定（2014年3月11日開催）

持ち回り審議を行った旅費規定について、特に異議なく承認されたことが報告された。2014年3月24日制定、2014年4月1日より施行。

2) 男女共同参画学協会連絡会12期要望書最終確定版（2014年3月6日開催）

持ち回り審議を行った男女共同参画学協会連絡会12期要望書最終確定版について、特に異議なく承認されたことが報告された。

3) ロゴマーク作成依頼文（2014年3月25日開催）

持ち回り審議を行ったロゴマーク作成依頼文について、特に異議なく承認されたことが報告された。

4) 「脳血管疾患・虚血性心疾患予防のための診療ガイド」（仮）策定協力依頼（2014年3月31日開催）

持ち回り審議を行った「脳血管疾患・虚血性心疾患予防のための診療ガイド」（仮）策定協力依頼について、特に異議なく承認されたことが報告された。合同会議の際の旅費は各々の学会で負担すると説明があった。

5) 利益相反に関する運用指針（2014年3月25日開催）

持ち回り審議を行った利益相反に関する運用指針について、特に異議なく承認されたことが報告された。また、役員の方に対して後日メールで利益相反に関する自己申告書を提出するよう呼びかけを行うとアナウンスがされた。

6) 利益相反に関する運用指針（英語）

（2014年4月4日開催）

持ち回り審議を行った利益相反に関する運用指針（英語）について、特に異議なく承認されたことが報告された。また、様式3（役員などの利益相反自己申告書）の翻訳についても、役員に外国の方が就任する場合も考えられるため、翻訳してはどうかと提案があり、承認された。本理事会後に翻訳を進めることとなった。

3. 理事会日程について（小野寺総務委員長）

今後の理事会日程案が資料として提出され、以下の通り2014年11月までの理事会日程が決定した。

- ・2014年8月29日（金）
- ・2014年9月18日（木）※大会前日
- ・2014年11月21日（金）

4. 平成26年度決算見込みについて（勝村財務委員長）

資料に基づき、平成26年度決算見込みについて報告があり、正式な決算は8月の理事会で報告予定であると説明された。

また、2014年4月23日に下光理事長と勝村財務委員長で本部事務局を訪ね、学会財産である預金通帳を全て確認し、適正に管理・運用されていることを確認したと報告があった。

5. 平成27年度予算案について（勝村財務委員長）

別紙資料により平成27年度予算案が提示された。法人2期目（2014年8月1日～）となる本予算案は、今まで別々にしていた各地方会及び大会収支を、本部会計と合算していくこととなったと説明がされた。また、例年と異なった点として、平成27年度は名簿作成及び選挙実施年であり、その費用を予算に組み込んでいるとの説明がなされた。現状の予算案では1,000万以上の赤字のため、費用削減の検討を関係役員で行いたいと提案があり、最終的な予算案は7月末までに持ち回り理事会で審議することとした。

6. 平成27年度事業計画案について（小野寺総務委員長）

別紙資料により平成27年度事業計画案が提示された。委員会活動の細かい部分（文言等）については別途調整・修正する事とし、7月末までに持ち回り理事会で審議することとした。

7. 学会賞について（竹森学会賞選考委員長）

学会賞選考委員会からの提出資料に基づき、審査経過ならびに審査結果が報告された。5月9日に開催された委員会において、下記3編の論文を各学会賞に選考したことが報告され、承認された。

【学会賞（体力科学）】※対象論文数 35編

- ◎「ベンチステップ運動でのトレーニングが閉経女性の骨密度、骨塩量と骨代謝に及ぼす影響」（62巻1号）
松原建史・酒井由美子・柳川真美・肘井千賀・沼田 信・江上 薫・山口靖子・峰 祐子・前田 龍・田中宏暁・進

藤宗洋・小池城司

【学会賞 (JPFISM)】※対象論文数 13編

◎「Adherence to and effects of multidirectional stepping exercise in the elderly: A long-term observational study following a randomized controlled trial」(2巻1号)

Ryosuke Shigematsu・Tomohiro Okura・Masaki Nakagaichi・Yoshio Nakata

【奨励賞】※対象論文数 体力科学 14編, JPFISM 6編

◎「小児の日常生活中におけるエネルギー消費量と体格・体力との連関 -二重標識水法および加速度計法を用いた検討-」(体力科学62巻5号)

中江悟司・山田陽介・木村みさか・鈴木和弘・小澤治夫・平川和文・石井好二郎

8. ロゴマーク案について (小野寺総務委員長)

別紙資料によりロゴマーク案3つが提示された。総務委員会で検討した結果、A案で進めたいと提案があり、A案の基本デザインで進めることが承認された。文字の位置や大きさ等細かい点を再度デザイナーに修正依頼し、次回理事会で再度提出することとなった。また、第69回長崎大会時の社員総会で、学会ロゴマークを決定する予定であると、今後の予定が説明された。

9. 特定資産取扱規程について (小野寺総務委員長)

別紙資料により特定資産取扱規程案が提示され、審議の結果、承認された。また、各地方会で保持している財産も今後本部会計と合算して進めていくこととなるが、各地方会の財産は各地方会で使用するよう規定する、運用規定案も次回理事会以降に提出することが報告された。

10. その他

1) 日本の体力医学の源流と変遷 (確井学術委員長)

体力科学63巻2号247-257掲載の総説「日本の体力医学の源流と変遷 (栗原 敏, 鈴木政登, 清田 寛)」は、本学会の歴史がまとめてあり、本学会の歴史を知らない会員にも役に立つと考えられるため、別刷りとして作成し、会員に周知したいと提案があった。審議の結果、長崎の社員総会時に参考資料として配布することが承認された。また、予算はその他学術活動費から支出することとした。

2) 「日本医学教育学会との共同企画」の提案 (下光理事長)

日本医学教育学会理事長の伴先生より、「日本医学教育学会との共同企画」の提案のお手紙をいただいたと報告があった。役員の方々にメール配信で本資料を共有した所、吉岡理事より、実習を行う際の倫理上の問題(特に学生を被験者として行う実習)に関するシンポジウムなどの開催は如何かと意見があった。今後先方と共同でできる企画があれば、提案していきたいと報告があった。

3) 日本医学会連合の設立 (下光理事長)

別紙資料により日本医学会連合の定款及び謄本が提示され、2014年4月1日に設立されたと報告があった。また、日本医学会の評議員として下光理事

長、連絡委員に吉岡理事、用語委員に鈴木理事、代委員に西平理事がそれぞれ引き続き担当すると報告があった。

4) JPFISMに学会大会の英文抄録を記載する日程案 (鈴木編集委員長)

2012年の理事会で提案していた、JPFISMに学会大会の英文抄録を掲載する日程案について、再度提案があった。審議の結果、大会終了後に提出する抄録を英文とし、JPFISMに掲載するための手続きについて、長崎大会(2014年)および和歌山大会(2015年)の総会において、会員に十分説明し、岩手大会(2016年)の発表抄録は英文としJPFISMに掲載することとなった。また、提出された英文抄録は編集事務局でnative speakerに添削依頼は行わず、発表者各自の責任で提出してもらう事を周知することが確認された。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 総務委員会 (小野寺委員長)

今後の総務委員会の活動予定が以下の通り報告された。

- ・ロゴマークの確定。
- ・利益相反の運用規定を、まずは役員から各種委員会へと広める。
- ・愛媛大会の大会長を推薦する。

2) 編集委員会 (鈴木委員長)

編集委員会報告として配布資料が配られ、以下の通り報告された。

- ・利益相反運用指針が制定されたことにより、持ち回り委員会を開催し、投稿規定を改定。
- ・英文の投稿規定については本理事会終了後に、利益相反に関する部分を翻訳し、HPに掲載予定。
- ・JPFISM発行予定について、来年度は役員改選の時期にあたり、新たにJPFISM編集委員長に就任された方が、当面の掲載論文確保に困らないよう、2015年Vol. 4, Vol. 5までのInvited Review articles and Short review articleについては打診済み。
- ・JPFISMの依頼総説に対して、会員から意見があったと報告があり、「Invited Review articles and Short review article」に投稿して頂いた方々の貢献に報いるという点においても、「依頼総説および短報」の「査読過程等」を工夫して、「査読有り」論文として取り扱われるよう、編集委員会において検討を行う予定。
- ・2014年3月3日にJPFISMのMEDLINE(PubMed)申請を行った。
- ・J-STAGE投稿審査システム利用料として年額15万円の負担となる予定。
- ・2014年4月10日、11日に鈴木委員長と今泉副委員長が鶴岡印刷を視察し、鶴岡印刷では学術情報XML推進協議会に入会したこと、JPFISMの編集業務をスムーズにするため英語が堪能なスタッフを採用した、との報告を受けた。
- ・長年本学会の編集業務に携わった白幡裕子氏に感

謝状と粗品を渡した。

- ・予算削減に係る体力科学, JPFISMの保管用の印刷部数を必要最小限の部数に留めるよう検討予定。
- 3) 学術委員会 (碓井委員長)
- ・スポーツ医学研修会実行委員会 (山内委員長)
新しい講師を4名迎え、テキストも新たに作り直したことが報告された。
今年の研修会は基礎コースが2014年7月11日12日、応用コースが8月1日2日で行われると説明された。
現在の申込状況は仮登録含めて20名以上集まっていると報告があった。
 - ・称号委員会 (碓井委員長)
4月24日付で「日本体力医学会健康科学アドバイザー」の商標登録の出願を行ったと報告があった。8月～10月頃に結果連絡が到着するなど、今後の予定が説明された。
 - ・プロジェクト研究委員会 (碓井学術委員長)
4月末を応募メ切と設定していたプロジェクト研究について、検討の結果、今年の採択するプロジェクトは無かったことが報告された。また、今年の採択件数が0件であったため、来年度2件のプロジェクト研究を採択したいと提案があり、承認された。
- 4) 評議員選考委員会 (吉岡委員長)
- 今年度も学会誌に評議員申請要項を挟み込み、広く募集を行うと報告があった。
- 5) 渉外委員会 (永富委員長)
- 渉外委員会報告として配布資料が配られ、以下の通り報告された。
- ・内科系関連8学会 (日本動脈硬化学会, 日本肥満学会, 日本糖尿病学会, 日本高血圧学会, 日本循環器学会, 日本内科学会, 日本腎臓病学会, 日本血栓止血学会) が、改定する動脈硬化疾患包括的リスク管理ガイドライン2014の策定に、本学会が参加することになったと報告があった。5月17日の第2回合同会議には川久保ガイドライン検討委員長が参加予定。また、本学会大会時に合同シンポジウム開催を検討中。
 - ・2014年4月2日にThe Asian Society of Exercise Science (ASES) が設立された (国際運動生化学会が母体の団体)。本学会との連携について既に打診があり、合同企画等を検討中。
 - ・ACSM参加助成対象者3名が決定し、学会HPに掲載を行った。
 - ・ECSS-JSPFSM 交流シンポジウムについて、ECSS2014 Amsterdamに宮地元彦先生を派遣、「身体活動のガイドラインについて」ECSS2014 Award受賞者を招待講演者に加えた交流シンポジウムを長崎大会で開催予定。また、ECSSでは毎年11月を締め切りとして翌々年度の招待講演・シンポジウムの企画を募り、年明け1月のプログラム委員会ですべての企画案の審査・採択を決定し

ており、本学会との交流シンポジウムプログラムも審査対象になるため、ECSS2016以降の企画案については、このルールに従って提案をする必要がある。この対策として、本理事会後に学会員に広く企画募集を行う予定。なお、提案には座長候補者の推薦も含めることとする。ECSS2015の交流シンポジウムについては会員に周知する期間がなかったため、渉外委員会メンバーに企画推薦を依頼した結果、永富委員長、藤田委員が「筋力低下・サルコペニアに関わる因子とそのメカニズム」をテーマとした企画を提出し、現在ECSS側の返事待ちの状況。

6) 広報委員会 (武政委員長)

2014年4月1日に学会HPをリニューアルしたと報告があった。

7) 将来構想検討委員会 (下村委員長)

大会におけるPlenary Lectureについては渉外委員会の活動をバックアップしていくこと、学会HPにおける会員名簿検索 (会員管理システム) については現在事務局に調査を依頼していると報告があった。

2. 第68回 (東京) 大会の大会報告について (栗原第68回大会長)

資料に基づき、参加人数は学生の参加者を含めて2,000名を超えたこと、収支決算について報告があり、学会に約24万6千円を寄付したと報告があった。

また、当日登録の参加者が多いと、大会開催事務局の収支計画が立てづらいため、事前登録の呼びかけを行って欲しいとの提案があった。

3. 第69回 (長崎) 大会の進捗状況 (中垣内第69回大会実行委員長)

1) 菅原大会長の所属変更

2014年4月1日より、長崎大学教育学部から西九州大学健康福祉学部へ異動したと報告があった。

2) 演題登録

2014年4月1日より、大会HP上で演題登録の募集を開始し、締切は5月21日の予定であり、5月15日現在、口頭発表が50題、ポスター発表が74題、どちらでもよいと回答された方が17題、合計141題と報告があった。また、演題募集の延長については、5月22日の実行委員会で判断を行う予定であると報告があった。

3) 企業展示

企業展示スペースとして38コマ準備し、現在24コマ申込があり、残りの枠を埋めるためにも、役員の方で懇意の企業があれば声掛けをお願いしたいと依頼があった。

4) 事前参加登録

事前参加登録の締切は7月31日までで、現在一般が109名、学生が24名と合計133名の事前参加登録がされていると報告があった。

5) 大会プログラム

大会プログラムに関しては演題登録が済んだ段階

で確定を行う予定であると報告があった。また、大会長講演1題、特別講演1題、シンポジウム15題、ワークショップ6題、ランチョンセミナー4題、県民公開講座1題と、講演者には依頼の承諾が得られていると報告があった。

6) 会期・会場

会期：平成26年9月19日(金)～21日(日)
会場：長崎大学文教キャンパス

4. 第70回大会(和歌山)の準備状況(小野寺総務委員長)

配布資料により、大会の準備状況等について報告があった。

大会長：田島文博(和歌山県立医科大学教授)

副大会長：本山 貢(和歌山大学教授)

会期：2015年9月18日(金)～20日(日)

会場：和歌山県民文化会館、
ホテルアバローム紀の国

テーマ：げん紀の国 和歌山

～オリンピック・パラリンピアンのスपोर्ट医学と健康増進体力医学の融合～

5. 第71回大会(岩手)の準備状況について

(小野寺総務委員長)

国体開催事務局から要請があり、昨年の総会でお知らせしていた会期を変更しなければならなくなったと説明され、新たな日程が報告された。

【変更前】 会期：2016年9月2日(金)～4日(日)

会場：マリオス、アイーナ

【変更後】 会期：2016年9月23日(金)～25日(日)

会場：マリオス、アイーナ

6. その他

・先般逝去された中野昭一名誉会員に哀悼の意を表し、全員で黙祷した。また、中野昭一名誉会員の追悼文を吉岡理事が作成することとなった。

第162回日本体力医学会関東地方会のご案内

テーマ：「20年後を見据えた子どもの体づくりを考える」

開催日：平成26年12月20日(土) 13:00より

会場：早稲田大学東伏見キャンパス205教室

(東京都西東京市東伏見2-7-5 STEP22)

最寄駅：西武新宿線東伏見駅から徒歩1分

(<http://www.waseda.jp/jp/campus/higashifushimi.html>)

当番幹事：田口素子(早稲田大学スポーツ科学学術院)

Tel & Fax：04-2947-6778

E-mail：mtaguchi@waseda.jp

【予定プログラム】

13:00～13:05 開会挨拶

13:05～13:35 基調講演1

(座長：岡 浩一郎(早稲田大学スポーツ科学学術院))

「時間栄養学からみた食事の重要性」(仮)

柴田重信(早稲田大学先進理工学部)

13:35～14:05 基調講演2

(座長：岡 浩一郎(早稲田大学スポーツ科学学術院))

「子どもの身体活動を推進する効果的な支援方策」(仮)

森丘保典(日本体育協会スポーツ科学研究室)

14:15～15:50 シンポジウム

(座長：鳥居 俊(早稲田大学スポーツ科学学術院))

1) 「発育発達と子どもの身体組成」(仮)

緑川泰史(桜美林大学健康福祉学群)

2) 「子どもの生活習慣とメタボリックシンドローム」(仮)

原 光彦(東京都立広尾病院小児科)

3) 「身体活動による子どもの睡眠の質の改善効果」(仮)

野井真吾(日本体育大学体育学部)

4) 総合討論

16:00～18:00 一般発表

発表時間：1 演題10分(発表8分+質疑応答2分)

※口演のみ

注意事項：発表者は日本体力医学会の正会員であることが原則です。一般発表申し込み時に正会員でない人は、地方会開催前に学会事務局で正会員入会の手続きを済ませてください。筆頭者が非会員の場合は、抄録掲載料3000円を徴収致します。

18:00～18:20 海外留学報告

(座長：樋口 満(早稲田大学スポーツ科学学術院))

「英国における研究成果」(仮)

田中千晶(桜美林大学健康福祉学群)

18:30～20:00 情報交換会

(早稲田大学東伏見キャンパス204教室、軽食付)

【演題申し込み手続き】

演題名、発表者および共同研究者とその所属、口演要旨(400字程度)、連絡先(氏名、郵便番号、住所、電話およびFAX番号、E-mailアドレス)をE-mailにて下記にお送りください。

【演題申し込み締切】

平成26年11月20日(木)

【問い合わせ・送信先】

高木 俊(早稲田大学スポーツ科学学術院)

E-mail：stakagi@aoni.waseda.jp

平成27年度日本体力医学会プロジェクト研究公募について

日本体力医学会プロジェクト研究（以下、プロジェクト研究）は、平成9（1997）年度に発足しました。日本学術会議体力科学研究連絡委員会から「日本人のための健康体力指標の標準化、及び健康増進・疾病予防のための身体活動に関する推奨・指針作成への提言」が出されたことを受けて、平成16年度からこの提言に関わるプロジェクト研究を公募して参りました。平成27年度の公募研究テーマが下記のごとくに決定しましたので、奮って応募いただくようご案内致します。

プロジェクト研究の全体像

- プロジェクト研究は、日本人の健康維持・増進に関連した体力および身体活動・運動を主題とした研究であり、その成果として、社会に向けて勧告、指針などの提言がまとめられるものでなければならない。
- 平成27年度は下記のいずれかの研究テーマに関わる研究課題に限定する。
 - 特定保健指導(メタボリックシンドローム対策)に関する基礎的研究
 - こどもの生活習慣と健康づくりに関する研究
 - スポーツ科学(体力科学・体力医学)に関する研究
- 多施設が共同研究を行うことにより、より優れた成果が出るような研究プロジェクトであること。その際に各研究者の役割を明確にすること。
- プロジェクト研究の選考は学術委員会の下部組織であるプロジェクト研究委員会が行う。
- プロジェクト研究の申請は、研究代表者（評議員）と数名の発起人が、研究計画書を共同で作成し、プロジェクト研究委員会に提出する。
- プロジェクト研究委員会では提出された研究計画書を審査し、採択候補研究を選定する。なお、新規採用可能件数は原則1件である。
- プロジェクト研究委員会は研究計画に基づき研究費を配分する。研究費は主に調査や資料の収集などに当てるものとする。年間およそ100万円程度

を限度として配分する。プロジェクト研究の研究成果は3年以内でまとめ、(1)プロジェクト研究委員会の審査を経て、理事会の承認を得ることとし、(2)「体力科学」および日本体力医学会大会において公表する。（注：学会の公式見解とするかどうかは、理事会で審議する）

プロジェクト研究に応募される方は、研究代表者（評議員に限る）と数名の発起人が、以下の項目に沿って研究計画書をA4版にワードプロセッサで書き、平成27年4月30日までに下記の提出先にお送りください（電子メールによる提出が望ましい）。研究計画の採否は追って、研究代表者に通知します。

研究計画書

- 研究代表者名(署名捺印してください)、所属部署・所属大学など、住所、最終学歴(卒業大学または修了大学院)と年月日、学位の有無、連絡先の住所、電話、ファックス、電子メールアドレス
- 研究発起人名、所属部署・大学、最終学歴(卒業大学または修了大学院)と年月日
- 研究課題
- 研究目的(200字以内)
- 研究期間(3年以内)
- 研究計画(200字以内)
- 研究方法(400字以内)
- 期待される研究成果(200字以内)
- 研究費の使途(会合費、通信費、印刷代などの費目)に分けて概算を記載してください
- この研究に関するこれまでの成果(原著、著書などの研究業績)を番号をふって書いてください

提出先 田中喜代次

日本体力医学会プロジェクト研究委員会委員長
〒305-8574 つくば市天王台1-1-1
筑波大学体育系
電話：029-853-2655 Fax：029-853-2986
E-mail：tanaka@taiiku.tsukuba.ac.jp

公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団平成27年度研究助成の公募について

- 助成の対象
 <一般公募研究>
 単年度(平成27年4月1日～平成28年3月31日)
 ・医学分野：塩類の生理作用、健康に及ぼす影響に関する研究
 食品科学分野：食品の加工・調理・保存及び食品栄養における塩類の役割に関する研究
- 募集件数および研究助成金額
 <一般公募研究>
 ・医学分野：23件程度
 食品科学分野：17件程度
 ・研究助成金額：1件当たり100万円以下
- 応募資格：日本国内の大学、公的研究機関等で研究に携わる人(学生・研究生等を除きます)。若手研究者の積極的な応募を期待。
- 応募方法：財団のウェブサイトから平成27年度研究助成募集要領(Microsoft Word)をダウンロードし、募集要領に基づいて所定の書式に記入のうえ、書面により提出。
- 応募期間：平成26年11月1日～平成26年12月10日まで(締切日財団必着)
今回から締切日が早くなりました。ご注意ください。
- 提出先：公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団
 〒106-0032 東京都港区六本木7-15-14
 塩業ビル3階
 電話：03-3497-5711
 URL：<http://www.saltscience.or.jp>
- 選考結果の通知：財団の研究運営審議会による審査・選考を経て、3月に応募者へ書面で通知。

第37回 公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団学術研究募集

主催：公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学
振興財団
THE DESCENTE AND ISHIMOTO MEMORIAL
FOUNDATION FOR THE PROMOTION OF
SPORTS SCIENCE

応募資格：

- ①体育学，健康科学，人間工学，被服科学，運動施設工学等健康の増進と体力の向上に関わる学術，およびその他スポーツ振興に寄与する学術研究に関する講座を持った大学，およびこれに準ずる研究機関に所属する個人またはグループ。
 - ②高校生から幼児までの教育機関に奉職しており，①に前述した分野で研究または調査活動を積極的に行っている個人またはグループ。
- この場合，運動生理学的研究でなくとも，あくまで教育現場に於ける身近なテーマで，すぐにも役立つ研究テーマを求めている。
- 但し，研究報告等に不慣れな人は，報告書作成に習熟した人を共同研究者に加えて申請のこと。

学術研究テーマ：自由課題学術研究

本財団の主旨に添ったものであり，申請者がこれまで行って来た研究を助成することによって，調査・研究の発展・充実が期待されるものであること。

応募方法：本年度の公募締切日は2014年11月7日です。
応募者は，所定の申請用紙に研究テーマ，目的，内容および期待される成果等を簡潔に書き，2014年11月7日(当日消印有効)までに書面にて下記宛提出すること。
(申請書は所定用紙または当財団ホームページより，**B4サイズにてダウンロードしたものとする。** 但し所定用紙をコピーし使用する場合は，第37回申請書をコピーのこと，自作による作表および前回までの用紙は使用しないこと)

応募書類 送付先・資料の請求および問い合わせ：

〒543-8921 大阪市天王寺区堂ヶ芝1-11-3

(株)デサント 開発部内

公益財団法人 石本記念デサントスポーツ
科学振興財団 編集局

TEL：06-6774-0252 FAX：06-6774-0245

ホームページアドレス：

<http://www.descente.co.jp/ishimoto/>

日本女子体育大学附属基礎体力研究所 第25回公開研究フォーラム 「はじまりー社会と共創する研究を考えるー」

日時：平成26年11月29日(土) 13：30～16：55 (予定)

場所：日本女子体育大学本館1階 E101教室

参加費：無料

お問い合わせ先：

E-mail：kisotai@jwcpe.ac.jp

TEL：03-3300-6172, 03-3300-6175

URL：<http://www.jwcpe.ac.jp/research/>

プログラム

●13：35～15：00

セッションⅠ <研究所における研究動向と展望>

◇13：35～13：55

「基礎体力研究所のこれまでとこれから -25周年を迎えて-」

定本 朋子 (基礎体力研究所所長)

◇13：55～14：45 「若手研究者の挑戦と今後の展開」

「暑熱環境下での運動時における静脈血管応答」

大上 安奈 (東洋大学食環境学部)

「皮膚血流の影響を分離した脳酸素化動態測定法の開発」

平澤 愛 (東洋大学理工学研究科)

「ストレッチに対する血管および筋の伸展性変化」

大槻 曜生 (日本女子体育大学基礎体力研究所)

「運動時の脳血流調節 -これまでの知見と今後の応用展開」

佐藤 耕平 (日本女子体育大学基礎体力研究所)

●14：45～15：15 ポスター発表 & コーヒーブレイク

●15：15～16：55

セッションⅡ <特別講演：スポーツは未来に向けて何を育み創造するのか>

◇15：15～16：05

「運動を柱とした人と地域を活性化するサクセフルエイジング社会の構築」

大藏 倫博 (筑波大学)

◇16：05～16：55

「女子体育の力 -ジェンダーバイアスを乗り越える知恵-」

溝口 紀子 (静岡文化芸術大学)

●16：55 閉会

●17：10～16：10 懇親会

於：日本女子体育大学学生会館2階

編 集 後 記

日本体力医学会の編集委員を拝命し、編集業務、査読業務に関わってまいりました。体力科学という領域の広さは学会の発表件数はもちろんのこと、投稿される論文の幅広さからも常々実感していましたが、投稿論文の査読をお願いする会員を名簿やインターネット上で検索しても各会員の業績の幅広さに驚くことがしばしばです。このたび初めて編集後記の担当が巡って来ましたので、まず実感をお伝えしました。

さて、本号には大学生や小学生の身体活動（あるいは不活動）とその背景の要因や対策に関係する研究、投球障害の発生要因としての下肢・体幹機能に関する研究という3本の原著論文、起立-着席運動を支援するシリアスゲームの生理・心理的影響の評価についてのノート、そして運動中の脈波伝搬速度に関する資料など広い領域にわたっています。専門外の領域の論文が掲載されると、素通りしてしまう方もおられるかと思いますが、いずれも現代の体力科学、スポーツ医学の最新研究として意義深い論文です。ぜひご一読下さい。

さて、この夏も猛暑で始まり、台風・大雨被害など自然との闘いが続いています。自然災害への対策は危険の推測に基づく行動と体力ではないかと思っています。高知県では過去の水害に学んで河川の流量や湾内の潮位から水門の開閉のタイミングを判断し、被害を最小限にとどめたと聞きます。猛暑に関しても、最近熱中症注意

情報にアクセスすれば、危険度の予測はできるようになってきました。一方、冬山では天候や気温に関する情報が平地ほど綿密には提供されませんが、それ以上に準備不足の中高齢の遭難事故が減っていないようです。これらの情報に対して、私たちは危険からの回避行動をとるべきかどうか、自身や所属集団（あるいは指導対象）の広い意味での体力を想定して決定をします。その意味では体力の把握は重要ですし、体力の維持向上は不可欠です。少子高齢社会の日本は、長寿化により高齢者人口がしばらく増加しますが、熱中症事故は大半が高齢者という事実に対して情報提供や注意喚起は行われているものの、高齢者自身の体力の把握（自己評価）が不十分と考えざるをえません。

来春にはスポーツ庁が設置され、競技スポーツだけでなく健康スポーツも含めた日本のスポーツ関連行政を担当することになります。競技スポーツと健康スポーツが乖離しすぎれば問題ですが、両輪として国民の健康増進やQOL向上につながっていくことが期待されます。日本体力医学会やその会員はスポーツに関する学識者として、さまざまな科学的情報を発信し、提言していくことが責務だと思います。

鳥居 俊

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.63, No.5

体 力 科 学 第 63 卷 第 5 号

平成 26 年 9 月 25 日 印 刷

平成 26 年 10 月 1 日 発 行

編集兼発行者	鈴木 政 登
発 行 所	一般社団法人日本体力医学会 〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4階 学会支援機構内 TEL : 03-5981-6015 FAX : 03-5981-6012 E-mail : jspfsm@asas.or.jp
編 集 事 務 局	〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社内 TEL : 0235-22-3120 FAX : 0235-22-3120 E-mail : hj-tairyoku@turui.co.jp
印 刷 所	〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社
